

農園を訪ねて<その3>

育苗・接木苗専売農場(飯泉農場)

日本の農園を紹介する不定期シリーズの3回目は茨城県つくば市にある野菜接木・自根苗の生産販売を40年以上にわたり営み、国際耕種が業務委託実施するJICA 筑波野菜栽培技術コースにおいて永らく研修視察見学先としてお世話になっている飯泉農場を紹介する。

飯泉農場における苗生産販売は40年以上前に現農場代表飯泉恵生さんの祖父が始められて以来の歴史を持ち、飯泉さん御自身も会社勤めを経て家業を引き継がれてから20年を優に越える経験を持っている。

ご自身の地所に苗木生産専用トンネルハウス(10アール)数棟、育苗温床用給湯システムと加温機、また土壌消毒用可動式蒸気ボイラおよびコンテナなどを所有され、2月生産開始から5月連休明け頃終了の販売期間に、ご家族および雇用者により接木・自根苗合わせて凡そ40,000鉢を生産している。スイカの接ぎ木作業の場合、穂木・台木準備(切出し)、接ぎ(接合)、植え戻し(鉢植)を二名ずつ計6人で1チームとして作業すると一日で1,000株は接げるとのことです、その流れ作業の速さ正確さには目を見張る。



飯泉農場の野菜苗直売所

取扱い品目(作目)は果菜類でトマト、ナス、ピーマン、トウガラシ、スイカ、メロン、キュウリ、かぼちゃ他ウリ類の接木また自根苗を場内で直接販売している。近年は近隣のホームセンターなどでも取り扱われている様子だが、高い技術力に支えられた接木苗の品質などはその違いが一目瞭然である。

盛期は近隣の生産者が1,000鉢(株)単位で購入

していたとも聞かすが、高齢化も相俟って近年は専業でも50~100株、一般家庭での自家菜園面積の株数の売上げがほとんどとなってしまっている。その様な中でも高い技術力による“健苗”を求めて旧知の生産者から、また噂を聞いた近郊の一般消費者、また農業資材店(種苗小売店)などからの引き合いも常に一定数在るとのことだった。



スイカの接木作業

作目、品種、数量などの生産計画はこれまでの実績をもとに決定する。たまに新奇な品目・品種にも挑戦するが、翌年には定番に落ち着くとのことである。

2月~5月の短期決戦の苗生産・販売後はご自身でも野菜生産も行うが主力はやはり苗生産との事であった。

研修コースでも「苗半作」に表される育苗の重要性や低環境負荷の病害防除方法としての接ぎ木技術の理解修得を実習課題にしているが、訪問時に我々コース研修員にも気軽に接ぎ木体験させて頂くなど有難い機会を提供頂いている。

近年は息子さんが生産および経営に参画され、お子さんの笑い声と共に明るい雰囲気を漂わせていた。量販店の台頭などもあるが、高品質な接木苗の量産体系を含む技術の保存の為に農場の継続発展を願うものである。



飯泉農場で接木作業に挑戦する野菜コースの研修員

*写真は2019年撮影、情報は2021年時のもの